

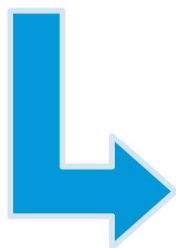


最優秀賞

建物名: 青森県庁舎



施工前



施工後

■ 作品明細

物件名	青森県庁舎耐震・長寿命化改修工事南棟、東棟、議会棟)	改工期	2015年8月～2018年12月
所在地	青森県青森市長島1-1-1	改装面積	11,000㎡
施主名	青森県	改装工法	カーテンウォール改装工法
設計者名	株式会社 日建設計<(元設計) 基本設計: 谷口吉郎、 実施設計: 日建設計工務>	使用材料	アルミ
建築会社名	建築工事 奥村・鹿内・盛 特定建設工事共同企業体		
外壁施工会社名	同上		

■ 改装・設計コンセプト

「古さを魅力に」

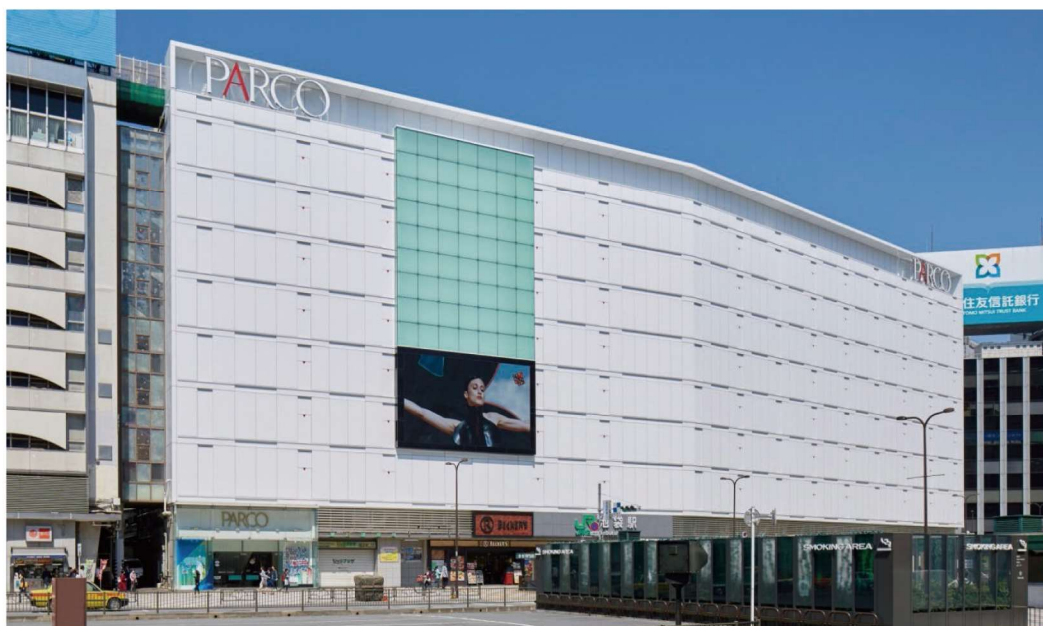
1. メモリアル&エイジング: 県木ヒバの外装……県民に愛される庁舎に
 - 改修前に建物に使われていたヒバ材に不足分を新規材で補い 外装に利用……メモリアル
 - 新旧ヒバ材の日焼けによる変色を年を経ながら楽しめる。(歴史的建造物のように古びを愛でる建物へ) ……エイジング
 - 外断熱、直接外気冷房(ナイトパージ)、自然換気を考慮したハイスペックな環境外装設計。
2. 100年建築へ: 築60年・あと40年使うための大改修
 - 建替えて次々となくなる昭和30年代の建築を 誇りを持って使ってもらえる姿に再生。
3. 元設計者: 谷口吉郎デザインの継承
 - 谷口デザインをリスペクト……外装のRC縦リブのデザインをアルミ方立に置き換えて継承。壁の色調も同一とした。
4. 減築&耐震改修6階を減築し5階建てへ
 - 少子高齢化、人口減少を象徴する社会的減築プログラムに対応し、効率的な耐震補強設計、改修手順を提案。
5. 最新の機能にアップデート新築庁舎と同等な機能に向上
 - 新築庁舎建築と同等な建築・設備仕様にアップデート化を行った。執務室直天井方式を採用(メリハリ設計)



建築改装協会



施工前



施工後

■ 作品明細

物件名 池袋パルコ本館東面外壁改修工事
所在地 東京都豊島区南池袋1-28-2
施工主名 株式会社 パルコ
設計者名 株式会社 大林組一級建築士事務所
建築会社名 株式会社 大林組
外壁施工会社名 株式会社 LIXILリニューアル

改装工期 2015年4月～2016年9月
改装面積 3,000㎡
改装工法 パネル改装工法
使用材料 アルミ、アルミ複合パネル

■ 改装・設計コンセプト

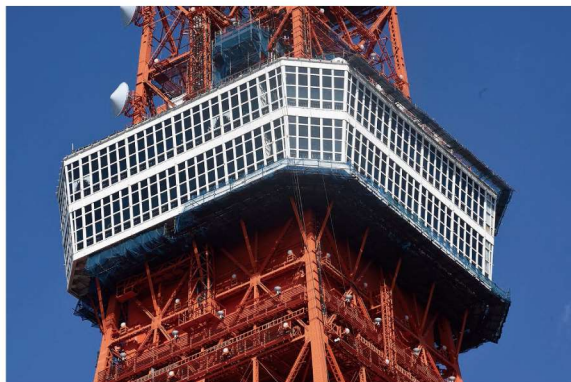
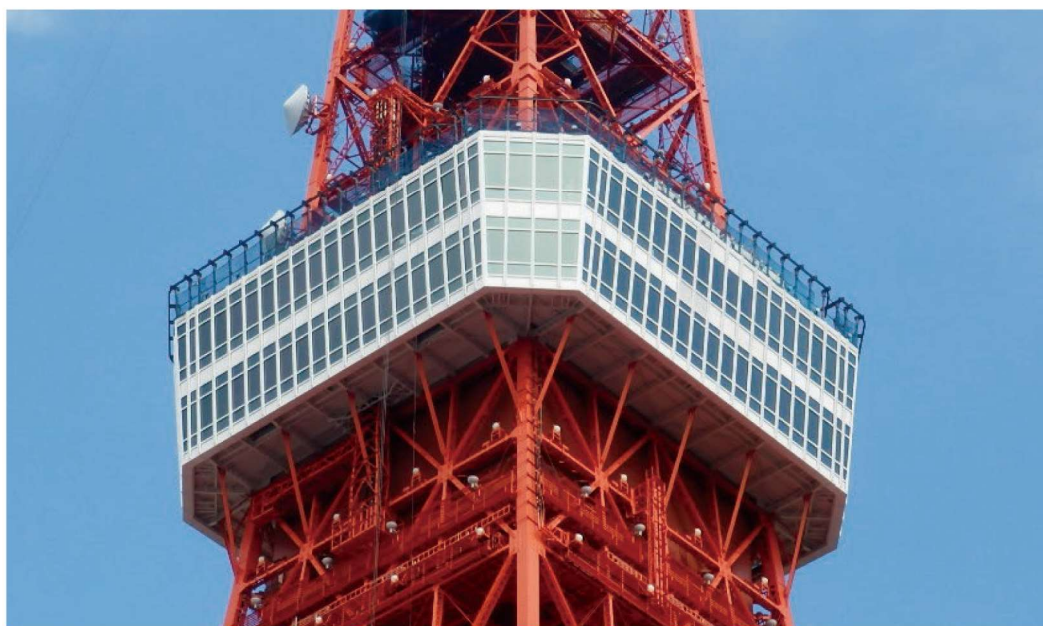
建築家村野藤吾により設計され、1957年に大林組により施工竣工した商業施設の外壁改修プロジェクト。1970年代に外壁改修が一度行われている。

池袋はパルコ創業の地である。池袋パルコの強いアイデンティティになっているグリッド状のデザインを継承し、60年以上前に村野藤吾が考えたデザインの再定義を目指した。建物のわずかな凹凸で新しいグリッドを形成し、プログラミングされたLEDライティングを用いて「光と影」によりファサードを【リ・デザイン】し、新たな企業イメージを発信できるようなアイデンティティを甦らせることを意図している。

大きな構成としては、「ベースウォール」を基本の素地としながら、三層構成の頂部となる「ゲートウォール」を新設することで建物の輪郭を明確にし、さらには広告媒体となる「キャラクターウォール」を主要動線上に付加することで大きな壁面に焦点を作り出している。

機能上のクライテリアは、築60年以上の既存RC躯体を守るための安全性の高い止水ラインを、新しい外皮で形成することである。一方で既存外装パネルを撤去後のRC躯体から敷地境界までの離隔が非常に近接していたため、これら意匠と機能の両立を実現するために許される寸法は非常に厳しく、160mmの有効幅で収めることを求められた。解決策として、スタッドボルトを取り付けたアルミ複合パネルをロッキング機構によって支持し、パネルごとの位相を160mmの中で僅かにずらしながら組み合わせることで、大きな外壁面に表情を与えている。また、照明についてもテープ型のLEDを用いることで、収まり寸法を最小限とする工夫をした。

精鋭の先人たちが建設し、施主によって長年にわたって大事に使われている建物に再解釈を与える作業は、困難を伴いながらも非常に胸躍る作業であった。これからも池袋の街のなかで、人々の印象に残り、親しまれる建築であり続けることを期待している。

**入賞****建物名: 東京タワー****施工前****施工後****■作品明細**

物件名 東京タワー
所在地 東京都港区芝公園4-2-8
施主名 株式会社 TOKYO TOWER
設計者名 株式会社 日建設計
建築会社名 株式会社 竹中工務店
外壁施工会社名 株式会社 LIXILリニューアル

改装工期 2016年9月～2019年9月
改装面積 1,300㎡
改装工法 カーテンウォール改装工法
使用材料 アルミ

■改装・設計コンセプト

東京タワーの竣工は昭和33年（1958年）。竣工来の外装スチールサッシを(株)TOKYO TOWER様の基本的な要望であった「時代に即した展望台の眺望、耐結露性」の向上に加え、耐震性、耐風圧性、断熱性、排水機構等の向上を図ることを目的にアルミカーテンウォールに更新する改修工事を実施しました。

展望台を営業しながらの工事のため施工対象となる面毎に外部に吊り足場を設置し、観光エリアと工事エリアの境界には、頑強な仮囲いを設け止水対策、風養生対策等を考詳細手順で施工を進めることがポイントです。

ストックヤードが無く、改修部が地上150mであることから揚重方法が限定される事より高層部では前例のないノックダウン工法でのカーテンウォールを採用しました。

改修後のカーテンウォールの耐風圧性能は5,698Paであり風速換算すると96.45m/sとなっています。

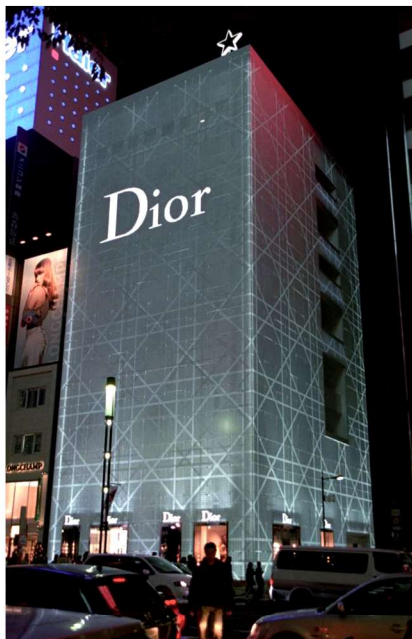
割付も5列×4段⇒20枚／スパンから4列×3段⇒12／スパンに更新し開口部を大きくすることで眺望を向上させることを実現しました。また硝子もPG+合せ硝子を採用し、耐結露性を高めることを実施しました。

今回、営業を維持しながら実施した高さ150mにおけるノックダウンカーテンウォールの実践は、強風・豪雨対策にも余念無い状況でありながら、準備段階からの入念な取組み努力の継続により、実現したこと、将来超高層ビルにおける外装更新工事が発生する先駆的実施例を作れた作品であります。

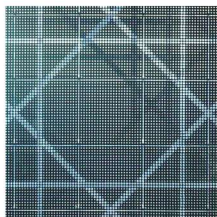
**建築改装協会**

**入賞**

建物名:銀座5丁目中央ビル



施工前



施工後

■作品明細

物件名	銀座5丁目中央ビル 改修	改装工期	2018年6月～2018年12月
所在地	東京都中央区銀座5-6-1 銀座5丁目中央ビル	改装面積	500㎡
施主名	株式会社 ボッテガ・ヴェネタジャパン	改装工法	パネル改装工法
設計者名	ボッテガ・ヴェネタ (実施設計: 清水建設 株式会社)	使用材料	アルミ
建築会社名	清水建設 株式会社		
外壁施工会社名	パルマスティリザ 菊川工業		

■改装・設計コンセプト

イタリアのラグジュアリーブランドの旗艦店として、自然な質感で、かつ高級ブランドのイメージを表現。

基本コンセプトはボッテガヴェネタ者の設計室により実施。

時を感じさせない自然の素材感を表現するために数多くの素材と仕上げを検討。

最終的に、素材はアルミを選定。表面には立体的な表情を作るために凹凸を施す。

仕上げ色は、塗装と違い金属光沢を残す酸化処理（発色仕上げ）を1枚1枚イタリアの職人で作業。

意図的にパネル毎の微妙な色違いにより、壁面全体としての質感を強調した。

**建築改装協会**